



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 杉田エース株式会社

コード番号 7635 URL <https://www.sugita-ace.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉田 裕介

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 佐藤 正 TEL 03-3633-5150

半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無： 無

決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	34,680	1.9	△73	—	△14	—	△95	—
2024年3月期中間期	34,017	6.3	142	—	190	109.3	79	—

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △128百万円 (—%) 2024年3月期中間期 102百万円 (—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△17.89	—
2024年3月期中間期	14.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期中間期	34,840	11,009	31.6	2,052.04
2024年3月期	38,801	11,406	29.4	2,126.02

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 11,009百万円 2024年3月期 11,406百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	78,000	5.8	985	△8.3	1,100	△7.2	610	△15.1	113.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更： 無

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	5,374,000株	2024年3月期	5,374,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	8,902株	2024年3月期	8,902株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	5,365,098株	2024年3月期中間期	5,365,147株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想の見直し等の記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	5
中間連結損益計算書 .....	5
中間連結包括利益計算書 .....	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当中間連結期間におけるわが国経済は、景気が回復基調を維持する一方で、物価高や自然災害の発生による消費マインドの停滞、中東情勢の緊迫化や為替相場の不安定な動きなどの影響によって、先行きは不透明で厳しい状況で推移しました。

住宅建設業界においては、貸家の着工は横ばい、持家と分譲住宅の着工は弱含みで推移しました。また首都圏のマンション総販売戸数は弱含みで推移しました。

このような経営環境下において、当社グループは、8月に長期保存食「IZAMESHI」の新商品「DAILY IZAMESHI 2」の販売開始とアウトドアファニチャー「PATIO PETITE」の新作「GA Series」の先行受注を開始いたしました。また9月に「IZAMESHI」販売開始10周年の節目に「IZAMESHI」のロゴと、おかず、ごはん、パン、スイーツのパッケージをリニューアルいたしました。東京ビッグサイトで9月に開催された「東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2024」に出展し、オリジナルブランドの「CLOVER」や多数の輸入雑貨、「PATIO PETITE」や「IZAMESHI」、防災袋&セット「SONAETE」なども展示し、多くの方にご来場いただきました。

この結果、当中間連結会計期間における当社グループの業績は、売上高34,680百万円（前年同期比1.9%増）、営業損失73百万円（前年同期は142百万円の営業利益）、経常損失14百万円（前年同期は190百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する中間純損失95百万円（前年同期は79百万円の親会社株主に帰属する中間純利益）となりました。

セグメント別の商品区分別売上高は次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より販売経路及び得意先の営業形態等を勘案し、「直需事業」の一部を「ルート事業」に移管する組織変更を行ったため、前中間連結会計期間比較については変更後の区分により再集計した数値を基に算出しております。

商品区分	ルート事業	直需事業	計	構成比
住宅用資材（百万円）	17,850	—	17,850	51.5%
ビル用資材（百万円）	13,188	—	13,188	38.0%
D I Y商品（百万円）	—	2,469	2,469	7.1%
O E M関連資材（百万円）	—	412	412	1.2%
その他（百万円）	759	—	759	2.2%
合計（百万円）	31,797	2,882	34,680	100.0%

① ルート事業（ルート事業は、金物販売店や建材商社、金属工事業者等へ住宅用資材及びビル用資材等を販売しております。また、設計・加工・施工機能による現場サポート営業も行っておりリニューアル専門会社、ゼネコン等へ多様な金属建材のオーダー対応等お客様の課題やニーズにあったソリューションの提供を行っております。）

ルート事業につきましては、建材や住宅設備価格、人件費や物流コストの上昇などの影響もあり、戸建住宅着工件数は減少しましたが、企業の設備投資や分譲マンションの着工は堅調に推移しました。この結果、住宅用資材及びビル用建材の販売は順調に推移しました。また、子会社であるフヨー株式会社は、主要商材に絡む防水物件や新築のシーリング工事は関東圏が低調となりましたが、関西圏が好調だったため、ほぼ前年並みで推移しました。一方で半導体や研磨関連の加工が好調を維持しており、全体では堅調に推移しました。

この結果、ルート事業全体の売上高は31,797百万円（前年同四半期比2.5%増）となりました。

② 直需事業 (直需事業は、アウトドアファニチャー「PATIO PETITE」や長期保存食「IZAMESHI」、ガーデンアイテム、雑貨、DIY商品等をホームセンター、通販会社等へ販売しております。また、ハウスメーカーや建材メーカーへはOEM商品を含む建築金物を販売しております。)

直需事業につきましては、8月に発生した日向灘地震による南海トラフ地震臨時情報の影響によりホームセンター及び通販関連会社では「IZAMESHI」を筆頭に備蓄・災害対策商品が需要増となり、堅調に推移しました。またOEM関連資材では、オフィス・ホテル物件へのドアクローザーの採用等による非住宅系商材の販売が低調に推移しました。

この結果、直需事業全体の売上高は2,882百万円(同3.7%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は25,341百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,762百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が546百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が2,465百万円、電子記録債権が947百万円、それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は9,499百万円となり、前連結会計年度末に比べ198百万円減少いたしました。これは有形固定資産が50百万円、無形固定資産が71百万円、投資その他の資産が76百万円、それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は34,840百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,960百万円減少いたしました。

### (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は19,016百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,142百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が729百万円、電子記録債務が1,755百万円、未払法人税等が296百万円、それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は4,815百万円となり、前連結会計年度末に比べ421百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が428百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は23,831百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,563百万円減少いたしました。

### (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は11,009百万円となり、前連結会計年度末に比べ396百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する中間純損失95百万円の計上と、剰余金の配当268百万円の支払いによるものであります。

この結果、自己資本比率は31.6% (前連結会計年度末は29.4%) となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月15日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,593	4,046
受取手形、売掛金及び契約資産	14,230	11,765
電子記録債権	4,593	3,645
棚卸資産	4,597	5,001
未収入金	948	726
その他	140	155
流動資産合計	29,103	25,341
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,998	3,998
その他(純額)	2,673	2,623
有形固定資産合計	6,671	6,621
無形固定資産		
のれん	691	648
顧客関連資産	118	111
その他	276	255
無形固定資産合計	1,086	1,015
投資その他の資産	1,938	1,862
固定資産合計	9,697	9,499
資産合計	38,801	34,840
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,275	6,546
電子記録債務	12,030	10,275
1年内返済予定の長期借入金	882	861
未払法人税等	370	74
賞与引当金	399	420
その他	1,199	838
流動負債合計	22,158	19,016
固定負債		
長期借入金	3,593	3,164
退職給付に係る負債	464	451
役員退職慰労引当金	664	670
資産除去債務	83	84
その他	429	443
固定負債合計	5,236	4,815
負債合計	27,394	23,831
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	697	697
資本剰余金	409	409
利益剰余金	10,161	9,796
自己株式	△4	△4
株主資本合計	11,263	10,899
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104	73
退職給付に係る調整累計額	38	37
その他の包括利益累計額合計	142	110
純資産合計	11,406	11,009
負債純資産合計	38,801	34,840

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	34,017	34,680
売上原価	29,154	29,751
売上総利益	4,863	4,929
販売費及び一般管理費	4,720	5,002
営業利益又は営業損失(△)	142	△73
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	6
仕入割引	68	71
受取家賃	28	28
その他	7	5
営業外収益合計	111	113
営業外費用		
支払利息	14	13
手形売却損	5	7
売上割引	37	31
その他	5	1
営業外費用合計	64	54
経常利益又は経常損失(△)	190	△14
特別利益		
固定資産売却益	1	—
投資有価証券売却益	—	15
特別利益合計	1	15
特別損失		
固定資産除売却損	5	2
災害義援金	—	3
特別損失合計	5	6
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	186	△4
法人税、住民税及び事業税	52	50
法人税等調整額	54	40
法人税等合計	106	91
中間純利益又は中間純損失(△)	79	△95
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	79	△95

## (中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失 (△)	79	△95
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	△31
退職給付に係る調整額	△0	△1
その他の包括利益合計	22	△32
中間包括利益	102	△128
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	102	△128

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	186	△4
減価償却費	158	141
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2	△1
のれん償却額	43	43
賞与引当金の増減額(△は減少)	10	20
固定資産除売却損益(△は益)	3	2
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△15
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2	△14
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	12	6
受取利息及び受取配当金	△6	△7
支払利息	14	13
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	2,458	3,415
災害義援金	—	3
棚卸資産の増減額(△は増加)	△196	△408
未収入金の増減額(△は増加)	160	222
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,121	△2,484
その他の資産の増減額(△は増加)	△57	△10
その他の負債の増減額(△は減少)	△40	△386
小計	△368	534
利息及び配当金の受取額	6	7
利息の支払額	△14	△13
法人税等の支払額	△541	△333
営業活動によるキャッシュ・フロー	△918	194
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の売却による収入	19	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△42	△40
投資有価証券の取得による支出	△2	△3
投資有価証券の売却による収入	—	27
貸付金の回収による収入	1	1
その他	△4	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28	△23
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△399	△449
配当金の支払額	△214	△268
財務活動によるキャッシュ・フロー	△614	△718
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,560	△546
現金及び現金同等物の期首残高	4,686	4,593
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,125	4,046

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計
	ルート事業	直需事業	
売上高			
外部顧客への売上高	31,024	2,992	34,017
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	31,024	2,992	34,017
セグメント利益又は損失 (△)	1,002	△109	893

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	893
全社費用 (注)	△750
中間連結損益計算書の営業利益	142

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## II 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計
	ルート事業	直需事業	
売上高			
外部顧客への売上高	31,797	2,882	34,680
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	31,797	2,882	34,680
セグメント利益又は損失 (△)	768	△72	696

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	696
全社費用 (注)	△769
中間連結損益計算書の営業損失 (△)	△73

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントの変更に関する事項

当社グループの報告セグメントの事業区分は、「ルート事業」「直需事業」の2事業としておりますが、販売経路及び得意先の営業形態等を勘案し、「直需事業」の一部を「ルート事業」に移管する組織変更を行いました。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の組織により再集計した数値を基に作成したものを開示しております。